

令和四年度 脇町高等学校 第一回学校運営協議会 協議等概要

1 日 時

令和4年 6月27日(月) 16時から17時まで

2 場 所

脇町高等学校 視聴覚室

3 学校からの説明(学校運営協議会について)

板東教頭が脇町高等学校協議会要綱より目的等を説明した

4 役員選出

会長として吉田委員、副会長として宮本校長が選出、承認された

5 協議

(1) 板東教頭が、脇町高校の取り組み概要(進学状況/部活動等の状況/SSHなどの特徴的な取り組み)を説明した

(2) 宮本校長が、学校経営方針と教育課程について説明した  
スクールミッション、教育目標および教育課程についての説明

(3) 各委員からの質問・提言等について

ア 学習者が主体的に「当事者」として学ぶ工夫として、SSHでの「課題研究」が挙げられる。そのほかに、授業はもちろん、学校行事などでも、生徒が考えて取り組めるように工夫をしている。

イ ダイバーシティとインクルージョンを取り入れてほしい。ジェンダー等のバイアスから脱却し、「子どものため」になる指導を追究してほしい。

ウ AIやIoTについても、理系だけが中心になるのではなく、倫理的な問題では人文学(文系)が重要な役割を担う。

エ WEBシステムによって、遠隔地からでもコミュニケーションが取れるようになった。企業でも地方在住の社員が増えてきた。地方と都市部の差もまだあるとは思いますが、脇町高校での取り組みが、そういう動きとつながり、地域住民や高校生から選ばれる学校作りをしてほしい。

オ かつて学校の魅力は進学率だったが、今はそれが変わってきている。今の学校の魅力を、子ども・保護者へどう伝えるか。学校の教員だけでなく、高校生も自ら発信できるような機会がほしい。

カ 都市部でも、高校選択では、進学状況や塾に行かなくて済むサポート体制等についてよく聞くが、課外活動の充実もそれに加わるのではないかと。例えば、企業と連携した商品の共同開発が、進学実績にもつながっていくように思う。

キ 地元の生徒が本校を選ぶような魅力を、地元美馬市の魅力と協力して発信していきたい。ラグビー発祥の地としての特色を生かして、自治体や地元企業と連携し、商品開発や地元地域の魅力の発信等も行えないかと、検討したい。